



ファームウェアバージョン:	V2.02BD02C	
ハードウェアバージョン:	DSR-1000	A1G
発行日:	2015/12/11	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しい DSR シリーズにインストールを行う際には、デバイス本体上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用の DSR がファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください

DSR シリーズに関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次：

変更履歴とシステム要件：	2
注意事項：	2
USB ストレージへの自動バックアップ/リストアの設定に関して：	4
WEB GUI を使用したアップグレード手順：	5
追加機能：	7
修正した問題点：	7
既知の問題：	9

変更履歴とシステム要件：

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
Runtime : R2.02BD02C	2015/12/11	DSR-1000	A1G

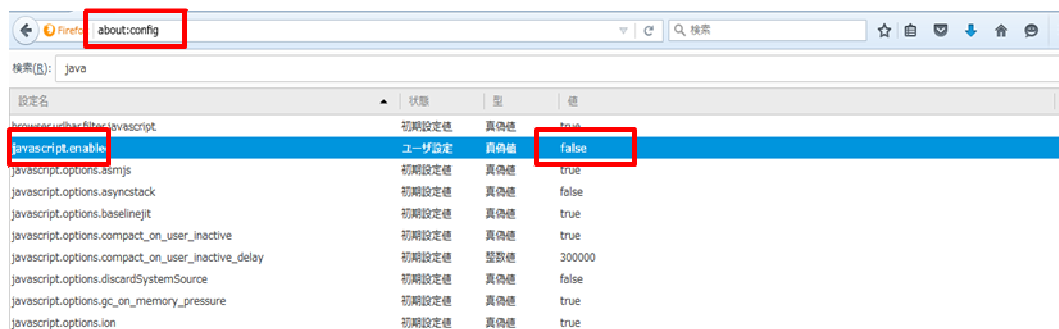
注意事項：

- DSR シリーズは 3G 機能をサポートしていません。
- DSR シリーズは、BGP ルーティングをサポートしておらず、CVE-2004-0230 の影響を受けません。
- Microsoft Windows XP は DSR ルータの USB ストレージへのアクセスに関して、制限事項があります。Windows XP 環境での制限を解除するために、D-Link ではレジストリスクリプトファイル (winxp.reg) を提供しています。このスクリプトファイルを適用しない場合には、Windows XP から USB ストレージへのファイルのコピーはできません。(この制限は、USB ストレージから Windows XP へのファイルのコピー時には発生しません)
- 1.04B58 以降、新しいユーザデータベースアーキテクチャが実装されています。新しいユーザデータベースはより簡単かつ直観的に利用できます。DSR のファームウェアを 1.04B58 以降にアップグレードする際は、DSR は古いデータベースでのユーザを新しいものに自動的にマージします。しかしながら、1.04B58 から古いファームウェア (例：1.03B43) にダウングレードする場合には、新しく作成したユーザ、ファイアウォールルール及びアプリケーションルールは削除され、前のファームウェアで設定されたユーザ、ファイアウォールルール及びアプリケーションだけを保持します。
注意：古いバージョンにファームウェアをダウングレードする場合は、リカバリのため、設定ファイルをバックアップしておいてください。
- ファームウェアをダウングレードする場合は、アップグレードする場合よりもシステムの再起動に時間がかかります。また、ダウングレードでは、コンフィグを維持することができませんので、ダウングレードした際は、リセットし、再設定を行ってください。
- DHCP 予約 IP アドレス機能が、「DHCP IP プールの範囲内」をサポートするようになりました。取得済みの古い DHCP 予約 IP アドレスは、今後も有効です。新規で DHCP 予約 IP アドレスを作成する場合は、新しい動作に従って作成されます。
- 1.04 から 1.06 以降のファームウェアにファームアップを行った場合、一部の設定が引き継がれない場合があります。ファームアップ後に設定内容をご確認ください。
- RADIUS/LDAP/AD/POP3 を含む外部データベースを通して SSL VPN ユーザを認証するには、ローカルユーザデータベース内と同じユーザ名・パスワードで、管理者がユーザアカウントを作成する必要があります。

9. PPPoE 経由でファームウェアアップグレードする際は、R1.08B51 もしくは R1.09B61 以外のファームウェアからのアップグレードはできません。また、PPPoE 経由でファームアップする場合は、Firefox41.02 以降を使用し、Firefox 上で必ず **JavaScript を無効**にしたうえで、添付の R1.09B61R を経由したアップグレードが必須となります。

(R1.08B51 or R1.09B61 => R1.09B61R => 本ファームウェア)

※JavaScript 無効方法



USB ストレージへの自動バックアップ/リストアの設定に関して：

D-Link DSR ルータは、USB デバイスが挿入されている間は、自動的に設定のバックアップもしくはリストアに対応しています。次の情報は、バックアップ/リストアを実行するための条件となります。

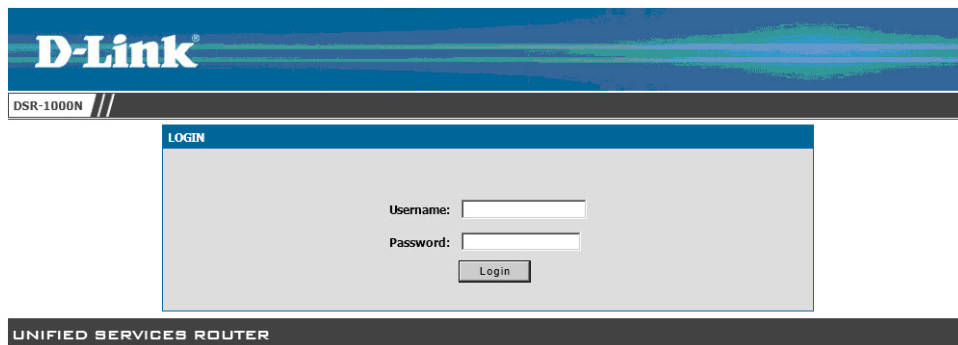
1. 本ルータの設定では、USB ドライブが挿入されるとすぐに自動的に USB ドライブにバックアップを行います。既に存在する DSR ルータからのバックアップ設定ファイルを持っていない USB ドライブには、「<モデル名>_<シリアルナンバー>.cfg」という形式でバックアップファイル名が提供されます。
2. ルータのシステム LED は、バックアップ操作が開始されることを示すために橙色に 3 回点滅します。
3. USB ドライブの設定ファイルは、ユーザが手動で WEB GUI のどのページにもある“Save Settings”ボタンをクリックし、USB ドライブに既に存在するファイルとルータのモデル名及びシリアルナンバーが一致すると更新されます。
4. リブートの場合においては、ルータは現在の設定ファイル（<モデル名>_<シリアルナンバー>.cfg）を確認します。もし設定ファイルが検出されれば、USB ドライブの設定ファイルはルータにリストアされます。正しいフォーマットの設定ファイルが接続された USB ドライブの両方に存在する場合、最初の USB ドライブの設定ファイルをルータのリストアに使用します。
5. USB ドライブは各モデル名にたいして、<モデル名>_<シリアルナンバー>.cfg のフォーマットで 1 つのみ設定ファイルをもつことが可能です。
6. USB ドライブを工場出荷時状態のルータに挿入し、リブートを行った場合、ルータに既にカスタマイズされた設定ファイルが存在しない時には、バックアップファイルは保存されません。ユーザが手動で WEB GUI のどのページにもある“Save Settings”ボタンをクリックすると、カスタマイズされた設定ファイルが USB ドライブに保存されます。

WEB GUI を使用したアップグレード手順：

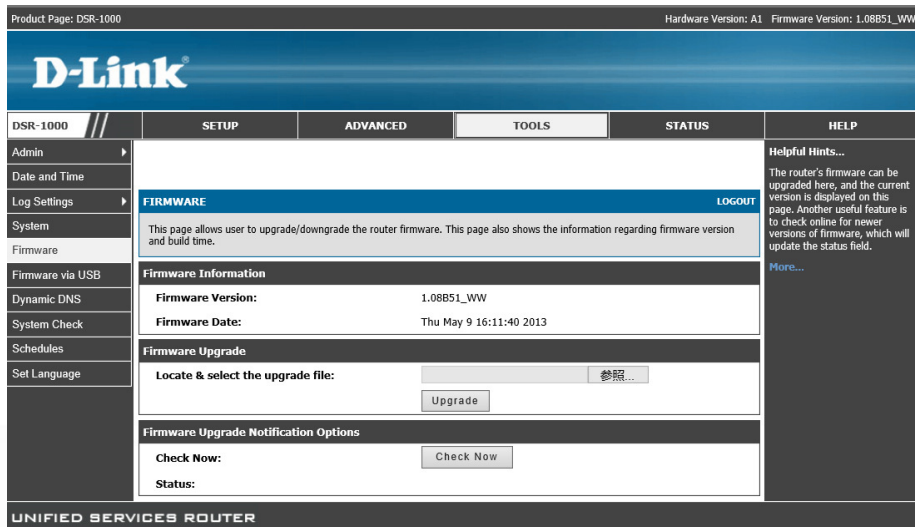
1. システムの IP アドレスを指定してルーターにアクセスします。
デフォルトのシステム IP アドレスは 192.168.10.1 です。



2. ログイン画面で、「Username」と「Password」を入力 → 「Login」をクリックします。
初期状態の「Username」と「Password」は、「admin」です。



3. TOOLS > Firmware の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。



4. 「参照」ボタンをクリックしてファームウェアイメージの場所を選択し、「Upgrade」ボタンをクリックします。



5. 確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします。

6. ファームウェアアップデートのステータスが表示されます。

Product Page: DSR-1000 Hardware Version: A1 Firmware Version: 1.08B51_WW

D-Link

DSR-1000	SETUP	ADVANCED	TOOLS	STATUS	HELP
Admin	<p>WARNING: The upgrade process takes a few minutes. Interrupting the upload or powering off the system during the upload may damage the firmware. Please wait until the upgrade process finishes before browsing any sites from your browser.</p> <p>0%</p>				<p>Helpful Hints...</p> <p>The router's firmware can be upgraded here, and the current version is displayed on this page. Another useful feature is to check online for newer versions of firmware, which will update the status field.</p> <p>More...</p>
Date and Time	<p>FIRMWARE LOGOUT</p> <p>This page allows user to upgrade/downgrade the router firmware. This page also shows the information regarding firmware version and build time.</p>				
Log Settings	<p>Firmware Information</p> <p>Firmware Version: 1.08B51_WW</p> <p>Firmware Date: Thu May 9 16:11:40 2013</p>				
System	<p>Firmware Upgrade</p> <p>Locate & select the upgrade file: C:\DSR-1000_A1_FW1.09B61 参照...</p> <p>Upgrade</p>				
Firmware	<p>Firmware Upgrade Notification Options</p> <p>Check Now: Check Now</p> <p>Status:</p>				
Firmware via USB					
Dynamic DNS					
System Check					
Schedules					
Set Language					

UNIFIED SERVICES ROUTER

7. アップデート後、再起動が行われます。再起動中は以下の画面が表示されます。

DSR-1000

STATUS MESSAGE

Router will be up in 132 Seconds

注意：ファームウェアのアップデート中および再起動中に電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

8. 再起動完了後にログイン画面が表示されます。 ログインし、ファームウェアがアップデートされたことを確認してください。

追加機能：

ファームウェアバージョン	追加機能
V2.02BD02C	<ol style="list-style-type: none"> 1. WebUI のデザインを刷新いたしました。 2. SSL VPN が外部認証データベースをサポート致しました。 3. すべてのサブネットでの DHCP 範囲をサポート致しました。 4. WAN でのシングル VLAN ID をサポート致しました。 5. 特定の IP もしくは VLAN を使って GUI にアクセスすることが可能になりました。 6. OpenVPN を強化致しました。(LAN サブネットは OpenVPN サーバのネットワークとして設定されることが可能) 7. 外部 HDD を最大 2TB HDD までサポート致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
V2.02BD02C	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポートフォワーディングに関する問題を修正致しました。 2. ヘルプコンテンツを強化致しました: WAN IP アドレスは、プライマリ/セカンダリ DNS サーバ IP アドレスとして設定されてはいけません。 3. コモンネームのない CA 証明書のインストールを許可しないように致しました。 4. ブロックキーワードや、DSR によりエクスポートされた許可済み URL CSV ファイルをインポートできない問題を修正致しました。 5. すべてのトラフィックがプロトコルバインディングで特定の WAN ポートに向けられた場合、PPTP クライアントが LAN PC にアクセスできない問題を修正致しました。 6. HTTP サーバが外部 IP の代わりに、DMZ の内部 IP を見ることができ問題を修正致しました。 7. ファームウェアバージョン 1.09 で、OpenVPN サーバとして DSR を設定できない問題を修正致しました。 8. CLI を介して正しい CIDR サブネットマスクを受け入れることができない問題を修正致しました。 9. 同じサービスだが異なるスケジュールを持ったファイアウォールルールを設定できない問題を修正致しました。 10. WAN ポートで VLAN と QoS を使用した際、TOS ビットが失われる問題を修正致しました。 11. SIP プロキシが LAN 上に存在する場合、LAN 側のクライアントの音声聞こえない問題を修正致しました。 12. PPTP パススルーが、PPTP ファイアウォールサービスより高いプライオリティをとる問題を修正致しました。 13. IPSec パススルーが、IKE アウトバンドファイアウォールより高いプライオリティをとる問題を修正致しました。 14. LAN クライアントページを開くのに時間がかかる問題を修正致しました。 15. 自己証明書要求ページで閲覧ボタンをクリックした際、"date to supply to CA" 欄が空欄になる問題を修正致しました。 16. サーバ IP アドレスの設定を削除した後も、シスログサーバにログを送信し続ける問題を修正致しました。

17. 設定された送信出力と表示される送信出力が一致しない問題を修正致しました。
18. トランスペアレントモードが WAN2 で動作しない問題を修正致しました。
19. WindowsXP の USB ストレージ問題を修正致しました。
20. PPTP および L2TP サーバのヘルプページにおいて、"Response to Ping"についての記載を追加致しました。
21. 別のデバイスからエクスポートした設定ファイルをインポートした場合、IPSec トンネルが確立できない問題を修正致しました。
22. スケジュールによるファイアウォールルールの問題を修正致しました。
23. OpenSSL 2014-3569、2014-8725 の脆弱性を修正致しました。
24. IPv6 LAN 設定ページでステートフルモードを選択した場合、プレフィックス長オプションが自動で隠れない問題を修正致しました。
25. LAN DHCP 予約 IP を設定した後、DNS ホスト名マッピング情報を加えた際エラーが出る問題を修正致しました。
26. CVE-2015-0291/CVE-2015-0204 の脆弱性を修正致しました。
27. RTP の NAT ループバック応答が遅い問題を修正致しました。
28. WAN ステータスページで PPP インタフェースで IPv6 IP を表示しない問題を修正致しました。
29. IPv6 PPPoE ISP で WAN を設定した際、IPv6 ネットワークを介して HTTP トラフィックを実行できない問題を修正致しました。
30. WAN IPv6 PPPoE 設定を適用した後、インターネットにアクセスできない問題を修正致しました。
31. 再起動後プレフィックスデリゲーション情報が失われる問題を修正致しました。
32. IPv6 ネットワークを介して Windows クライアントから WAN ホストに Ping した際ロスが発生する問題を修正致しました。
33. WAN インタフェースが LAN タグを持つことができない問題を修正致しました。
34. IPS が有効の場合、特定の Web サイトにアクセスできない問題を修正致しました。
35. "newfd :-1 err:4:Interrupted system call"ログを表示することがある問題を修正致しました。
36. 同時セッションが大量に発生した場合に、インターネット接続が中断されることがある問題を修正致しました。
37. サービスを持つ 2 つのプロトコルバインディングルールを作成できない問題を修正致しました。
38. NAT ループバックの SIP レジスターシーケンスが正しくない問題を修正致しました。
39. 2015 年 9 月 4 日で SSLVPN JAVA インストーラの証明書が期限切れになる問題を修正致しました。
40. DHCP リレーが VLAN を介して動作しない問題を修正致しました。
41. PPPoE 回線経由でファームアップデートができない問題を修正致しました。
(PPPoE 経由では、R1.09B61 および R1.08B58 から R1.09B61R を経由した本ファームへのアップデートのみが可能です)

既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題点
V2.02BD02C	<ol style="list-style-type: none"> 1. WAN スピルオーバーモードにおいて、WAN2 がアクティブになるトリガがない場合、インターネットから WAN2 への L2TP および L2TP over IPSec を確立することができない問題。 2. WinXP.reg スクリプトファイルを適用後、ルータは WindowsXP から USB ストレージに 250MB より大きいファイルを転送できない問題。 3. “Clone your PC's MAC Address”オプションを選択することにより、WAN1 と WAN2 ポートに同じ MAC アドレスを設定できる問題。 4. 入力、出力の VLAN ドロップパケットエントリーがダッシュボードページで正しく表示されない問題。 5. LAN と VLAN 上で同時に UPnP を有効にできない問題。 6. IPSec VPN トンネル上では、Bandwidth ルールに従って動作しない問題。 7. SNMPWALK で IPSec 詳細を表示するのに時間がかかる問題。 8. スピルオーバーのしきい値が、設定された値と正確に合致しない問題。 9. IPSec フェイルオーバーが特定の状況でしか動作しない問題。（例：Site-to-Site トンネルモードでは、エンドポイントでのみ発生します。） 10. ユーザが http または ftp のような事前に定義されたサービスを選択すると、帯域幅制御が動作しない問題。 11. インバウンドトラフィック管理のための特定のサービスサポートが動作しない問題。

Copyright 2006-2015 D-Link Japan K.K.